

父・桃井常治と三溪園での暮らし

講師：内田須美子様、聞き手：猿渡顧問

桃井常治（ももいつねじ、1901～1961年）は、原富太郎と原良三郎の執事として三溪園に暮らしました。その娘の内田須美子様から、戦後間もないころの三溪園の様子や、三溪園での暮らし、園内に住んでいた使用人たちのことなどを伺いました。



会場の様子

来年は原富太郎生誕150年に当たる。七十年の生涯（慶応4～昭和14年）は「原三溪翁伝」に詳しいが、次男良三郎が当主を受け継いだ後については、なかなか窺い知ることができない。今回、原家に仕えた桃井執事のご家族から「父・桃井常治と三溪園での暮らし」について貴重な講話を聞くことができた。とりわけ戦後間もない困難期の三溪園や原家の様子について、園内スナップ写真、使用人居宅も配した手書き園内略図をもとに語られた園内の生活・体験談に一同興味津々。「ほお！」と驚きの声も。特に心に響いたことは「原家と仕えた人々の家族との交流」である。鶴翔閣で開く全家族揃いの新年会や忘年会・演芸会を恒例とした原家の伝統。テニスやバドミントンに興じ、園内を遊び場にいつも一緒に遊んでいた子どもたちの絆。執事を務めた桃井、村田家をはじめ三溪園・原家に働く多くの使用人の家族が、共に三溪園内に居宅を構え、原家と共に一つの大家族の様にして三溪園での暮らしを築いていた。富太郎からの伝統・精神を良三郎もしっかり受け継いでいた。そして戦後、良三郎は「三溪園」を横浜市に託す決断を下して、父・三溪の精神・願いを受け継いだのだ。（小林）



興味の尽きない会員たちから質問を受ける内田様